

# 第5章 おわりに

- 2010（平成 22）年の国勢調査で三重県の人口は減少に転じましたが、高齢者人口は増加し、一人暮らし高齢者も増加しているところです。また、地域における人と人との支え合いの絆が希薄化してきていることから、高齢者の孤立化などが課題となっています。
- このような状況のなか、県においては、多数にのぼる入所待機者を解消するため、特別養護老人ホームなどの介護施設の整備を、市町と連携して重点的に進めているところです。
- 一方、多くの方がこのような施設サービスだけではなく、介護サービスを受けるようになっても住み慣れた自宅での生活を望まれていることから、施設サービスの整備とともに在宅生活を支える居宅サービスをバランス良く整備していく必要があります。
- 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、介護保険によるサービスに加え、医療や福祉サービス、さらには、地域の絆をいかした「見守り」などの生活支援サービスを組み合わせて高齢者の暮らしを支える「地域包括ケアシステム」を整備していくことが重要となります。
- 2011（平成 23）年 3 月に発生しました東日本大震災により、多くの高齢者の生命が失われるとともに、多くの高齢者施設が被害を受け運営が続けられなくなりました。また、2011（平成 23）年 9 月の紀伊半島大水害においても多くの災害が発生しました。これからは「災害は必ず起こるもの」と想定し、高齢者等災害時要援護者への支援や介護施設の防災対策等について関係者が連携して取り組んでいく必要があります。
- この計画書では、このような課題等に対応していくため、2012（平成 24）年からの 3 年間の県としての取組方向や具体的行動を示しています。これまでの施策の構成を見直し、わかりやすいように 7 つの取組体系（柱）のもと 41 の具体的な行動（アクション）を進めることとしています。
- 今後も高齢者が地域で安心して暮らせるよう、市町や関係団体等との連携、協力のもと高齢者福祉対策を総合的に進めていきたいと考えています。多くの方がこの計画書を見て、共に取り組んでいただければと思います。

## 計画の目標値

○ このプランでは、以下のとおり目標を掲げています

取組体系	指標名	現況	目標水準
介護サービス基盤の整備	特別養護老人ホーム(広域型)及び介護老人保健施設整備定員数(累計)	12,985 床 (平成 22 年度)	15,557 床 (平成 26 年度)
認知症総合対策	認知症サポーター数(累計)	49,385 人 (平成 22 年度)	72,500 人 (平成 25 年度)
地域包括ケアの構築	研修参加者数	550 人 (平成 22 年度)	750 人 (平成 26 年度)
介護・福祉人材の安定的確保	主任ケアマネジャー登録数(累計)	566 人 (平成 23 年度)	776 人 (平成 26 年度)
在宅生活支援の充実	地域貢献活動等に関する研修会参加者数	724 人 (平成 22 年度)	880 人 (平成 26 年度)

